



# 東北小だより

～学校教育目標～  
なかよく元気な子  
よく考える子  
すすんで働く子

開校57年目

新座市北野3-1-1 TEL 048-471-2022  
HP <https://e-tohoku-c-niiza.edumap.jp/>

令和7年度10月号  
全児童数 787名



## 学力とはいかに

～ 美しく 温かく 常に前進 東北小学校 ～

校長 斉藤 直之

秋が深まり、学習、スポーツ、芸術などに適した季節となりました。

先日、全国学力・学習状況調査(6年生対象)並びに埼玉県学力・学習状況調査(4年生以上)の結果が返却されました。この調査の主な目的は、児童と共に教師が学習状況を把握し、学力の一層の向上を図る、というものです。基本的な学力を身に付けるには、日ごろの授業をきちんと受け、家庭学習を習慣づけること、教師も児童の強みと弱み(学習状況)をつかみ、授業改善をしていくこと、この2つが両輪となります。

先述の埼玉県学力・学習状況調査には、学力調査だけでなく、以下のような質問調査もあります。

「問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやり続けられるように努力する」

では、なぜこのような質問が設けられているのでしょうか。

私は、ある新聞記事で、「やり抜く力」の正体についての一文を見つけました。

そこには、アメリカのアンジェラ・ダックワース教授の提唱している「GRIT理論」について述べられていました。

GRIT(グリット)とは、Guts(度胸・闘志)、Resilience(回復力)、Initiative(自発性)、Tenacity(執念・粘り強さ)を表しています。

ダックワース教授は、この理論を考えたのは、中学校で教師をしていた時の経験がきっ

かけだったそうです。数学を教えている中で、IQの高さと成績のよさには相関がなく、必要なものは粘り強く勉強をやり抜く力だと気づき、教師から心理学者に転身をしました。

やり抜く力は、小さな成功体験を積み重ね、今よりちょっとだけ難しいことに挑戦することなどで、強化はできるそうです。

学力に関する調査においては、つい正答率に目がいきがちですが、学校としては、生きる上で大切となる、やり抜く力や決断力、協調性など、数値で測れない人間的な力である、非認知能力の現在の状況も視野に入れて考えなければいけないと感じています。

調査項目には、他にも「勉強していてわからないことがあったら、先生に聞く」

「授業の内容が難しいときは、やらずにあきらめるか、簡単どころだけ勉強する」

このような項目がありますが、本校の児童の結果は、県平均より良い傾向が見られました。

また、朝ご飯を食べる児童、新聞を読む児童は、こうした学力に関する調査で高得点の傾向がある、とのことです。一見、学力とは関係のないことからですが、こちらは家庭での今後のヒントになれば幸いです。

学校では、これからも児童が現在の実力を知り、分からないことは、分からないと積極的に質問したり、最後まで課題をやり続けられるよう努力したりできる主体的な児童を育成するために、「解き方」だけでなく、「考え方」もしっかりと取り入れた授業を進めていきます。